

はじめに

日野市環境基本条例第18条に基づき、環境の保全のために市が実施した事業について、環境白書としてまとめました。限られた紙数のなかで、すべてをお伝えするのは、無理がありますので、いろいろ工夫し、全体がわかるように心がけました。

作成の経緯のなかで触れているとおり、今年からは、日野市環境情報センターが中心となり、市民、事業者と協働で調査、編集を行っています。1年ごとの変化は小さく、眼に見えて効果が上がるということは少ないものですが、7ページには数年にわたる変化をフェースマークで表現しました。環境基本計画で掲げられている課題の取組み状況は棒グラフで推移を表現しました。まだ手をつけていない活動が残されていることがわかります。未取組みの部分のなくなるよう、施策を見渡し、計画的に事業を進めないと、せっかくの計画が活きません。

市民、市民団体、事業者の取組みを紹介するページは昨年に比し大幅なページ増です。活動が活発化していることの現われと感謝いたします。それぞれに連絡先も記載してありますので、興味ある活動に積極的に参加していただければ幸いです。また、私どもの知らない活動の情報をお持ちでしたら、ぜひ日野市環境情報センター（かわせみ館）へご連絡ください。市民同士、情報を共有し、ネットワークをつくることは、地域力を高めることにつながります。

人と自然の共生する豊かな環境を作り出し、日野市の環境を次の世代に譲り渡すために、また地球温暖化を防止し、地球環境を保全するために、近代都市文明への反省を込めて市の施策の方向を確認するとともに、市民一人ひとりが行動するための一助となることを期待します。

日野市長 馬場 弘融

日野市環境基本条例と 2005 年度日野市環境白書作成の経緯

日野市環境基本条例（抜粋）

<前文>

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。

このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

<第 18 条>

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年(平成 7 年)に市民の直接請求により制定された日野市環境基本条例第 9 条に基づき、1999 年に「日野市環境基本計画(以下、「計画」という)」が策定されました。この計画に定められた施策の進捗状況は前記条例第 18 条に基づいて 1999 年度から毎年発行の「日野市環境白書」にそのつど公表されてきました。時間の経過に伴う状況の変化を予測して、当初から予定していたとおり、当基本計画は 2004 年 7 月から、公募市民、事業者、市、環境自治体会議の協働による見直しが始まりました。その結果、2005 年 10 月に「日野市環境基本計画～重点対策と推進体制～」が作成されました。従来から主な施策は指標としてデータを収集し、それに基づいて進捗状況を判定するのが当市の環境白書の特徴でしたが、今回の白書からは見直しによって指摘された重点項目を示す指標が大幅に採り入れられました。

これら追加すべき重点項目の中で、指標によっては本年度に間に合わないものもありましたが、収集可能なデータについては過去 5 年間にさかのぼって採り入れました。その結果、本年度版の白書は従来のものに比べて内容が豊富になっています。

なお、従来の白書は市環境共生部環境保全課が編集してきましたが、今回の白書からは市民・事業者と市が協働で作成に当ることになりました。市民としては「見直しによる基本計画」を推進する目的で結成された「日野市環境市民会議」の運営委員を主体として、白書の骨子の検討から、指標データの分析や市の環境施策に対するヒヤリングに基づくコメントの記載に至るまで、随時、市民の意見を取り込む一方、事業者からの情報提供なども求めました。原案の作成は環境自治体会議環境政策研究所の協力の下に、2005 年 7 月に創設された日野市環境情報センターが主体となって行いました。

(3)その他	42
①日野産大豆プロジェクト	42
②農の学校	42
③多摩川河川敷に咲く絶滅危惧種カワラノギクの回復事業	43
④市内のツバメ調査―「ツバメのくる家を探そう」、「ツバメ探偵団」	43
6. 環境関連決算額	44
7. 市役所の環境配慮の状況	45
8. 環境学習の取組状況	47
(1)2005年度の取組概要	47
(2)2005年度の取組実績	49
①市民による環境学習の取組	49
②学校等における環境教育の取組	58
③行政による環境学習の取組	61
9. 事業者・大学による環境に対する取組状況	65
(1)事業者による環境に対する取組状況	65
(2)大学による環境に対する取組状況	68
10. 環境基本計画の推進体制	70
(1)日野市環境市民会議の活動状況	70
(2)日野市環境情報センターの活動状況	70
11. 環境基本計画の推進体制	72